

宇宙ゴミ問題に打つ手はあるか

地球周回軌道にはゾンビ衛星やロケットの残骸、衝突によって生じた破片など、
2万個以上の人工物があり、大きな交通リスクとなっている。
研究者らは、宇宙ゴミがもたらす脅威を減じる方法を模索中だ。

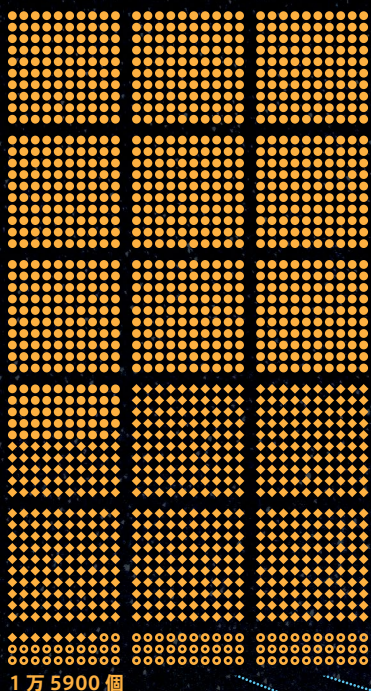
地球周回軌道の混雑

運用中および運用終了後の人工衛星やその他の人工のゴミ（ロケットの部品など）を追跡しているカタログによると、現在 2 万個以上の物体が地球を周回しているという。宇宙ゴミ問題は急激に深刻化している。2017 年には、すでに混み合っている空に 1800 個以上の新たな物体が加わった。

軌道上の物体の種類

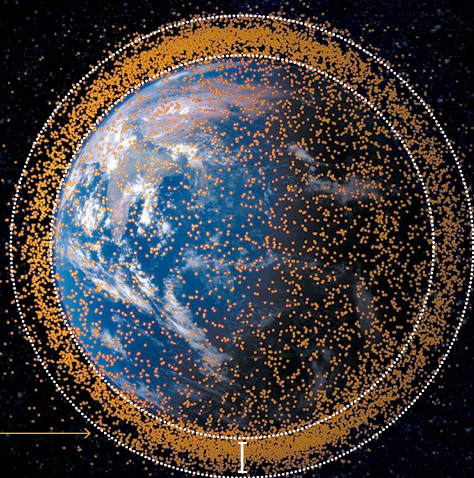
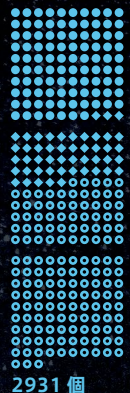
- = 10× ベイロード関連
- ◆ = 10× ロケット関連
- = 10× 不明

低軌道：高度 2000km まで
ここでカウントされる全ての物体が低軌道にとどまっているわけではなく、低軌道を通して地球からもっと離れるものもある。

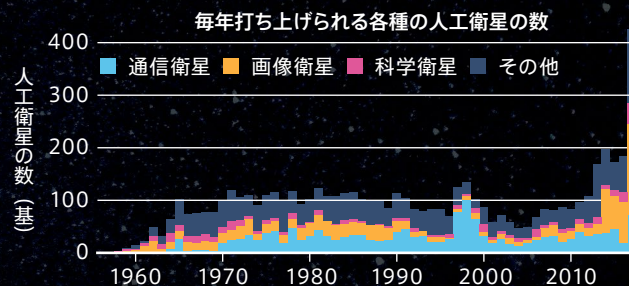
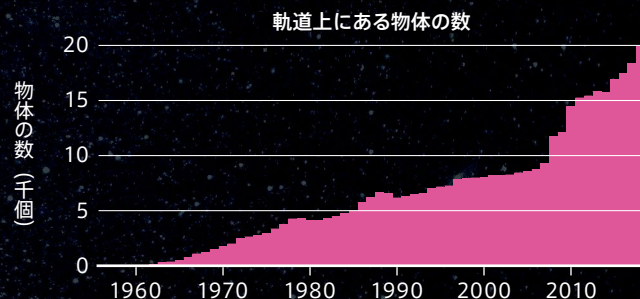


中軌道：
高度 2000 ~
3万5000km

静止軌道：
高度約 3万5000km
一部の通信衛星と気象衛星が利用する軌道。このカウントには静止軌道を通して通過する物体も含まれている。



地球周囲軌道を行き交う物体を
NASA が可視化したもの。



その他の軌道 中軌道を含む

